

エコアクション21

# 環境経営レポート

(2024年度)

2024年4月～2025年3月



《発行日》

2025年 6月 1日

株式会社長与管工設備工業所

長崎県長崎市女の都4丁目1番19号

# 目 次

1. 組織の概要	P1
2 環境経営方針	P2
3 実施体制	P3
4 環境経営目標(全社)	P4
5. 環境経営計画	P5、P6
6 環境経営目標の実績(事務所・建設現場)	P7
7 環境経営計画の取組結果とその評価、 次年度の取組内容	P8,P9
8 今後の環境経営目標(全社)	P10
9 今後の環境経営計画	P11、P12
10 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価 の結果, 並びに違反, 訴訟などの有無	P13
11 代表者による全体の評価と見直し・指示	P13
12 当社における環境配慮の取組	P14、P15

# 1. 組織の概要

## (1) 事業所名及び代表者名

株式会社長与管工設備工業所 代表取締役 尾川 公一

## (2) 所在地

〈本 社 〉 : 〒852-8144 長崎市女の都4-1-19

TEL:095-845-3229 FAX:095-847-9675

〈長与総合事務所〉: 〒851-2127 長与町吉無田郷2011-30

## (3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 神岡 孝緒

TEL/FAX : 本社に同じ

E-mail : nagayo6@chive.ocn.ne.jp

## (4) 建設業許可

### ① 特定建設業

許可番号 : 長崎県知事(特-6)第2964号

許可の有効年月日 : 令和7年3月17日～令和12年3月16日まで

建設業の種類 : 土木、管、塗装、とび土工、舗装、水道施設工事業

### ② 一般建設業

許可番号 : 長崎県知事(般-6)第2964号

許可の有効年月日 : 令和7年3月17日～令和12年3月16日まで

建設業の種類 : 機械器具設置

## (5) 事業の規模

① 設立年月日 : 1976年5月

② 資本金 : 2000万円

③ 事業年度 : 当年10月～翌年9月

項目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	百万円	641	921	1043
従業員	人	25	25	27
床面積	m <sup>2</sup>	152		

## (6) 認証・登録の対象範囲 (当社は全組織・下記活動を対象としています。)

適用事業所名、株式会社長与管工設備工業所 本社, 長与総合事務所

適用事業活動 : 管工事業、土木工事業

## (7) 適用されるEA21ガイドライン

・建設業者向けガイドライン2017年版

## 2 環境経営方針

### I. 基本理念

(株)長与管工設備工業所は、「ライフラインの中で最も重要である水を通じて世の中の役に立つ」という企業理念があります。「水を通じて社会を豊かにする」との理念のもと日々の事業を推進しております。

社会の価値観に合った人づくりや企業の成長を図りながら、社会に貢献していきます。

### II. 行動指針

当社は建設業が環境に及ぼす影響を理解し、自主的・積極的に環境経営に継続的に環境負荷の削減に努め、以下の取り組みを社員一丸となって推進します。

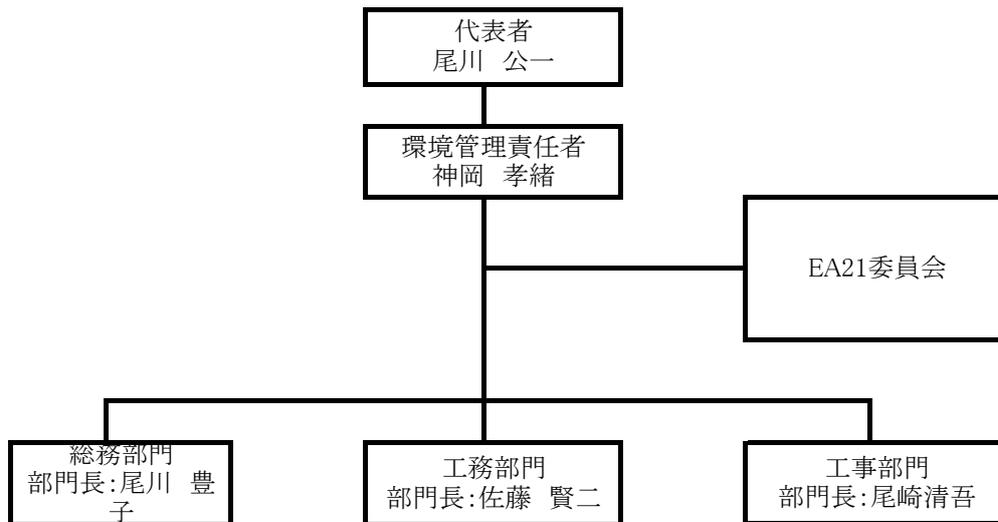
1. 事業活動に当たり、環境に配慮した設計並びに工事施工をします。
2. 事業活動においては環境に配慮した資材や製品を積極的に使用します。
3. 二酸化炭素排出量(軽油・ガソリン・電力等)の削減に努めます。
4. 省資源、省エネルギーに努め、環境負荷の軽減を図ります。
5. 3Rを推進し、廃棄物(建設副産物等)の排出抑制、リサイクルに努めます
6. 節水に努め、水使用量の削減に努めます。
7. グリーン購入の推進に努めます。
8. ボランティア活動を通して地域環境美化と環境意識の向上に努めます
9. 関係する環境関連法規等を遵守します。

この方針は社員全員が、常に環境意識を高め行動するように周知徹底し社会に公表します。

令和5年4月1日

株式会社長与管工設備工業所  
代表取締役 尾川公一

### 3. 実施体制



役割分担表

所 属	役割・責任・権限
代表者	代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ 環境経営方針を作成・見直し、従業員に周知する。 環境管理責任者、EA21事務局員を任命する 環境への取組を実施するための資源(人・もの・金)を準備する EA21全体の取組状況に関し評価と見直し・指示を実施する
環境管理責任者	EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境実績を向上させる。 環境経営目標、環境経営計画を作成する。 環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況を確認・評価する。 上記の結果を代表者に報告する。
EA21委員会	3か月に1回開催し、環境経営目標及び環境経営計画の実施状況を審議する。
部門長	環境経営方針、自部門の環境経営目標、環境経営計画を部門全員に周知する 環境経営目標達成のため、責任を持って自部門の環境活動を推進する 自部門で発生した問題点の是正処置、予防処置を実施する 自部門に関連する法規制等を順守する 自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する 自部門の教育・訓練を実施する
全従業員	環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

#### 4. 環境経営目標

### 環境経営目標（全社）事務所・建設現場 【2022年度～2024年度】

当社における環境経営目標は以下の通りです。  
2020年度の実績を基準値とし、表の数値はそれぞれ削減後の目標数値を示しています。

（各年度の活動期間は4月～翌年3月とします）

目標		単位	基準値 (2020年度実績)	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量の削減	全社	kg-CO <sub>2</sub>	143,279	141,847	140,414	139,010
				(基準値の1%減)	(基準値の2%減)	(基準値の3%減)
	事務所	kWh	10,281	10,178	10,075	9,973
	事務所	ℓ	19,089	18,898	18,707	18,516
燃料使用量の削減 (軽油)	建設現場	ℓ	35,895	35,536	35,177	34,818
一般廃棄物の削減(総量)	事務所	kg	3,288	3,255	3,223	3,190
			—	(基準値の1%減)	(基準値の2%減)	(基準値の3%減)
産業廃棄物の削減(総量)、再資源化	建設現場	総量(t)	43.3	42.9	42.4	42.0
			—	(基準値の1%減)	(基準値の2%減)	(基準値の3%減)
		再資源化率	10%	11%	12%	13%
				毎年1% 向上		
水使用量の削減	事務所	m <sup>3</sup>	85.0	84	83.3	82.5
			—	(基準値の1%減)	(基準値の2%減)	(基準値の3%減)
グリーン購入の推進	事務所	品目数	8品目	4品目	5品目	6品目
再生建設資材購入率	全社	%	51.5	52.0	52.5	53.0
			—	(基準値の1%増)	(基準値の2%増)	(基準値の3%減)
管更正工事	全社	件	2	2	2	2
地域貢献活動の推進	全社	回	4	4	4	4

備考：購入電力の二酸化炭素排出係数は(2017年版年度)九州電力、  
調整後排出係数(0.463kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用しています。

※ 灯油、LPGは使用量が少なく環境目標は設定せず削減に努めます。

但し、全社二酸化炭素排出量に含めます。

※ 当社は化学物質の使用はありません。

※ 当社は現場事務所を設置する工事件数が少なく全社目標を設定しています。

※ 管更正工事(古い管の効率化工事)は工事費削減、環境配慮(産廃の減少、  
車の渋滞の緩和、資材の有効活用)が出来ます。

## 5 環境経営計画

### 1. 二酸化炭素排出量の削減

責任者：環境管理責任者

取組項目		達成手段		担当者	スケジュール
1	電気使用量の削減	1	・不要な照明のこまめな消灯を徹底する ・昼休み及び不在時の、照明の消灯 ・不適切な状態を発見した場合は互いに注意する	工務部	年間を通して
		2	エアコン設定温度管理を徹底する(室内空調は夏季26～28℃、冬季は20℃以下に設定する)		年間を通して
		3	エアコンの簡易点検を実施する(簡易な法定点検含む)		1回/3ヶ月
		4	エアコンのフィルター等の定期清掃の実施		年間を通して
		5	パソコン、コピー機等は、省電力設定にする		年間を通して
		6	夜間・休日は、パソコン、プリンターの主電源を切る		年間を通して
		7	長期間使用しない機器はコンセントを抜く、ブレーカー・開閉器を切るなどし、待機電力を削減する		年間を通して
2	軽油・ガソリン使用量の削減	1	車輛・重機のアイドリングストップ励行	工事部	年間を通して
		2	運搬経路など無駄や無理のない運転をする		
		3	定期的な車輛整備(タイヤ空気圧点検、エンジンオイル交換等)		//
		4	過積載が行われないように徹底する		//
		5	運転日報のチェック、法定点検の実施		//
					//

### 2. 廃棄物排出量の削減

取組項目		達成手段		担当者	スケジュール
1	一般廃棄物排出量の削減	1	社内文書は裏紙使用の徹底	総務部	年間を通して
		2	ミスプリントをなくすためプレビューでの確認		//
		3	廃棄物分別の徹底		//
		4	コピー必要性の確認と共有		//
2	産業廃棄物排出量の削減	1	廃棄物の分別の徹底	工事部	年間を通して
		2	リサイクル推進		//
		3	産廃マニフェストの発行、適正な管理		//
		4	計画的な資材の購入		//

### 3. 水使用量の削減

責任者：環境管理責任者

取組項目		達成手段		担当者	スケジュール
1	節水活動	1	手洗い時、洗い物において日常的に節水を励行	総務部	年間を通して
		2	洗車は必要最小限にし、ホースにストッパーをつける	工事部	//
		3	舗装工事の散水用は、排水路の水や雨水を使用する	工事部	//
		4	節水を励行(声掛け、ポスターの掲示など)	総務部	//

#### 4. グリーン購入推進

取組項目		達成手段		担当者	スケジュール
1	グリーン購入推進	1	事務用品などは優先的に購入する	総務部	年間通じて
		2	可能な限り再生資材を使う	工事部	〃
		3	エコマーク商品を使用する	総務部	〃
		4			

#### 5. 事業活動における環境配慮活動の推進

取組項目		達成手段		担当者	スケジュール
1	再生建設資材購入率	1	環境に配慮した再生資材の購入を行う	工事部	工事打合せ時
		2	工事ごとに、再生建設資材の導入を検討していく。		
		3	工事内容により大きく左右される。		
		4			
2	管更正工事	1	管更正工事で、環境に優しい工事を行う	工事部	工事打合せ時
		2	行政、顧客にメリットをPRしていく。		
		3			
		4			
3	環境配慮型機械を使用する	1	工事ごとに事前に打ち合せし、環境配慮型機械を	工事部	工事打合せ時
		2	使用する。		
		3	機械においてはこれからも使用継続していき、運転操作		
		4	時にも配慮できるように現場全体で取り組む。		

#### 6. 地域貢献活動の推進

取組項目		達成手段		担当者	スケジュール
1	地域貢献活動の推進	1	事務所周りの除草、清掃活動をする	工事部	毎月1回
		2	長与川の除草、清掃活動をする	工事部	年に4回

## 6. 環境経営目標の実績

(全社)事務所・建設現場

項目	単位	2020年度	2024年度	(2024年4月～2025年3月)			
		(基準年)年間	年間				
		実績	目標	実績	*達成率(%)	評価	
二酸化炭素排出量の削減 全社(参考)	kg-CO2	143,279	139,010	184,456	75%	×	
電気使用量の削減 事務所	kWh	10,281	9,973.0	10,704	93%	△	
ガソリン使用量の削減 事務所	L	19,089	18,516	23,374	79%	×	
軽油使用量の削減 建設現場	L	35,895	34,818	48,540	72%	×	
一般廃棄物排出量の削減 事務所	kg	3,288	3,190	3,223	99%	△	
産業廃棄物の削減(総量)、 再資源化	総量(t)	43.3	42.0	141.2	30%	×	
	再資源化率	10%	13%	47.2%	363%	○	
水使用量の削減 事務所	m <sup>3</sup>	85	82.5	99	83%	×	
グリーン購入の推進 事務所	品目数	8	6	6	100%	○	
再生建設資材購入率* 全社	%	51.5	53.0	0	未実績	×	
管更正工事 全社	件	2	2	1	50%	×	
地域貢献活動の推進 全社	回/年	4	4	4	100%	○	

※: 達成率(%) :削減率 = 目標 / 実績、改善率 = 実績 / 目標

備考: 判定 ○ : 100%以上 △ : 90%~100%未満 × : 90%未満

備考: 購入電力の使用による二酸化炭素排出量は、九州電力の2017年度の調整後排出係数 0.463 kg/kWh を用いて算出した。

※ 灯油、LPGは使用量が少なく環境目標は設定せず削減に努めます。

但し、全社二酸化炭素排出量に含めます。

※ 当社は化学物質の使用はありません。

※ 当社は現場事務所を設置する工事件数が少なく全社目標を設定しています。

## 7. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

例年に比して工事量が増加し、環境負荷全体が大きく増加した。

今後も現在の活動を推進していく。1年後の中期計画時に目標値の見直しを行う。

### (1) 二酸化炭素排出量の削減

取組対象	評価(次年度の取組内容含む)
二酸化炭素排出量の削減	目標は大きく未達成となった。(75%) 例年に比して工事量が大きく増加したためである。 工事量の変動は建設業にとって回避できないものである。 今後は工事量の変動を想定した、適切な目標を設定していく。 全社の省エネ活動はほぼ定着しており、活動は次年度も継続していく。
電気使用量の削減	目標は未達成でした。(93%) エアコンの具体的な温度設定を定めて節電に 取り組んでいる。今後も全社でこれを徹底させながら 気温の±2℃で管理していく。不在時の消灯に も気をつけていく。
軽油使用量の削減	目標は未達成でした。工事量が大きく増加したためです。 日頃から、工事待機時のアイドリングストップは徹底しています。 今後も、省エネ運転につとめ、アイドリングストップは徹底していきます。
ガソリン使用量の削減	目標は未達成でした。工事量が大きく増加したためです。 移動距離や回数の増加並びに気温や工事の進捗により左右された。 省エネ運転はほぼ定着しており、アイドリングストップの励行も含めて 環境に配慮した運転を行うよう指導する。

### (2) 廃棄物排出量の削減

取組対象	評価(次年度の取組内容含む)
一般廃棄物排出量の削減	目標はほぼ達成できた。 事務所でのゴミの分別はできており、 引き続き周知徹底と削減に向けた改善策 を考えて実行していく。
産業廃棄物の削減(総量)、 再資源化	工事量増加に伴い、産業廃棄物の総量は大きく増加した。 総量は年度毎に変動するが、廃棄物の分別は定着しつつある。 従って、再資源化率は大きく改善できた。今後も改善していく。 マニフェストの管理はできている。 現場でのゴミの分別が未だ徹底できていない点も 見受られたため、管理者による監視と現場作業員 への周知の徹底をおこなっていく。

### (3)水使用量の削減

取組対象	評価(次年度の取組内容含む)
節水活動	目標は未達成でした。工事量増加が要因の一つです。 今後も、ポスターなどで呼びかけるとともに、引き続き、節水活動をおこなっていく。

### (4)グリーン購入の推進

取組対象	評価(次年度の取組内容含む)
グリーン購入推進	目標は達成できた。購入用途を見直しリスト化を進めている。 事務用品においては購入時に注意して心掛けて購入するようになった。 これからも継続していき、現場での再生資材の購入も検討する。

### (5)事業活動における環境配慮活動の推進

再生建設資材購入率	工事内容により大きく左右される。 今回、再生建設資材を購入する工事が少なかった。 今後も工事ごとに、再生建設資材の導入を検討していく。
管更正工事	今回は管更正工事の受注がなかった。 今後も、行政、顧客にメリットをPRしていく。
環境配慮型機械を使用する	工事ごとに事前に打ち合せし、環境配慮型機械を使用することができた。 機械においてはこれからも使用継続していき、運転操作時にも配慮できるように現場全体で取り組む。

### (6)地域貢献活動の推進

取組対象	評価(次年度の取組内容含む)
地域貢献活動の推進	目標は達成できた。 今後も地域の清掃活動においては、積極的に参加する。 工事現場ではその都度こまめに清掃している。 従業員の意識の向上を図り、時間のある時や気づいたら行うようにしていく。

8. 今後の環境経営目標

環境経営目標（全社）事務所・建設現場 【2025年度～2027年度】

当社における環境経営目標は以下の通りです。

2024年度の実績を基準値とし、表の数値はそれぞれ削減後の目標数値を示しています。

（各年度の活動期間は4月～翌年3月とします）

目標		単位	基準値 (2024年度実績)	2025年度	2026年度	2027年度
1. 二酸化炭素排出量の削減	全社 (参考)	kg-CO <sub>2</sub>	183,803	181,965	180,127	178,289
		kg-CO <sub>2</sub> / 百万円	210.1	208	206	204
		基準売上高	875百万円	(基準値の1%減)	(基準値の2%減)	(基準値の3%減)
電力使用量の削減	事務所	kWh	10,704	10,597	10,490	10,383
燃料使用量の削減 (ガソリン)	事務所	ℓ	23,374	23,140	22,907	22,673
燃料使用量の削減 (軽油)	建設現場	ℓ	48,540	48,055	47,569	47,084
2. 廃棄物排出量の削減						
1) 一般廃棄物の削減 (総量)	事務所	kg	3,223	3,191	3,159	3,126
			—	(基準値の1%減)	(基準値の2%減)	(基準値の3%減)
2) 産業廃棄物の削減 (総量)、再資源化	建設現場	総量(t)	141.2	139.8	138.4	137.0
			—	(基準値の1%減)	(基準値の2%減)	(基準値の3%減)
		再資源化率	31.7%	11%	12%	13%
毎年1% 向上						
3. 水使用量の削減	事務所	m <sup>3</sup>	99.0	98	97.0	96.0
			—	(基準値の1%減)	(基準値の2%減)	(基準値の3%減)
4. グリーン購入の推進	事務所	品目数	6品目	基準年維持	基準年維持	基準年維持

5. 事業活動における環境配慮活動の推進

1) 再生建設資材購入率	全社	%	10.0	10.1	10.2	10.3
			—	(基準値の1%増)	(基準値の2%増)	(基準値の3%減)
2) 管更正工事	全社	件	1	1	1	1
3) 環境に配慮した工事 の推進	全社	—	—	工事の都度実施する。		
6. 地域貢献活動の推進	全社	回	4	4	4	4

備考：購入電力の二酸化炭素排出係数は(2023年度)九州電力、

調整後排出係数(0.402kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用しています。

※ 灯油、LPGは使用量が少なく環境目標は設定せず削減に努めます。但し、全社二酸化炭素排出量に含めます。

※ 再資源化率、再生建設資材購入率は年度に大きく変するため、過去の平均値を使用します。

※ 当社は化学物質の使用はありません。

※ 当社は現場事務所を設置する工事件数が少なく全社目標を設定しています。

※ 管更正工事(古い管の効率化工事)は工事費削減、環境配慮(産廃の減少、車の渋滞の緩和、資材の有効活用)が出来ます。

## 9 今後の環境経営計画

### 1. 二酸化炭素排出量の削減

責任者：環境管理責任者

取組項目		達成手段		担当者	スケジュール
1	電気使用量の削減	1	・不要な照明のこまめな消灯を徹底する ・昼休み及び不在時の、照明の消灯 ・不適切な状態を発見した場合は互いに注意する	工務部	年間を通して
		2	エアコン設定温度管理を徹底する(室内空調は夏季26～28℃、冬季は20℃以下に設定する)		年間を通して
		3	エアコンの簡易点検を実施する(簡易な法定点検含む)		1回/3ヶ月
		4	エアコンのフィルター等の定期清掃の実施		年間を通して
		5	パソコン、コピー機等は、省電力設定にする		年間を通して
		6	夜間・休日は、パソコン、プリンターの主電源を切る		年間を通して
		7	長期間使用しない機器はコンセントを抜く、ブレーカー・開閉器を切るなどし、待機電力を削減する		年間を通して
2	軽油・ガソリン使用量の削減	1	車輛・重機のアイドルストップ励行	工事部	年間を通して
		2	運搬経路など無駄や無理のない運転をする		
		3	定期的な車輛整備（タイヤ空気圧点検、エンジンオイル交換等）		〃
		4	過積載が行われないように徹底する		〃
		5	運転日報のチェック、法定点検の実施		〃
					〃

### 2. 廃棄物排出量の削減

取組項目		達成手段		担当者	スケジュール
1	一般廃棄物排出量の削減	1	社内文書は裏紙使用の徹底	総務部	年間を通して
		2	ミスプリントをなくすためプレビューでの確認		〃
		3	廃棄物分別の徹底		〃
		4	コピー必要性の確認と共有		〃
2	産業廃棄物排出量の削減	1	廃棄物の分別の徹底	工事部	年間を通して
		2	リサイクル推進		〃
		3	産廃マニフェストの発行、適正な管理		〃
		4	計画的な資材の購入		〃

### 3. 水使用量の削減

責任者：環境管理責任者

取組項目		達成手段		担当者	スケジュール
1	節水活動	1	手洗い時、洗い物において日常的に節水を励行	総務部	年間を通して
		2	洗車は必要最小限にし、ホースにストッパーをつける	工事部	〃
		3	舗装工事の散水用は、排水路の水や雨水を使用する	工事部	〃
		4	節水を励行（声掛け、ポスターの掲示など）	総務部	〃

4. グリーン購入推進

取組項目		達成手段		担当者	スケジュール
1	グリーン購入推進	1	事務用品などは優先的に購入する	総務部	年間通じて
		2	可能な限り再生資材を使う	工事部	//
		3	エコマーク商品を使用する	総務部	//
		4			

5. 事業活動における環境配慮活動の推進

取組項目		達成手段		担当者	スケジュール
1	再生建設資材購入率	1	環境に配慮した再生資材の購入を行う	工事部	工事打合せ時
		2	工事ごとに、再生建設資材の導入を検討していく。		
		3	工事内容により大きく左右される。		
		4			
2	管更正工事	1	管更正工事で、環境に優しい工事を行う	工事部	工事打合せ時
		2	行政、顧客にメリットをPRしていく。		
	環境に配慮した工 事の推進	1	低騒音型機械の採用、防音防塵シートの使用、 適切な散水による防塵対策)	工事部	工事の都度
		2	低騒音型・排出ガス対策型の重機を使用する	工事部	
		3	残余資材のリユース、リサイクル化の徹底	工事部	
		4	建設副産物発生削減、分別による再資源化	工事部	
		5	工事での事故、騒音・振動・塵埃による苦情削減	工事部	
		6	工事現場及び周辺の定期的な清掃を実施する。	工事部	

6. 地域貢献活動の推進

取組項目		達成手段		担当者	スケジュール
1	地域貢献活動の推 進	1	事務所周りの除草、清掃活動をする	工事部	毎月1回
		2	長与川の除草、清掃活動をする	工事部	年に4回

## 10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社は環境活動取り組みの一環として定期的に環境関連法規の遵守状況を確認しており環境関連法規への違反はありません。また訴訟についても同様ではありません。今後においても環境関係法規、条例等を理解した上で、法律の遵守に努めます。

令和7年 6月 1日  
株式会社長与管工設備工業所  
環境管理責任者 神岡 孝緒

## 11. 代表者による全体の評価と見直し・指示

- ・今回、例年に比して工事量が大きく増加し、環境負荷も全体が大きく増加しました。省エネ、節水、廃棄物削減の取り組みは定着しつつあります。
- ・事務所では、こまめな照明、空調管理を行い、廃棄物の分別・削減を徹底していく。一人一人節水を意識していく。グリーン購入の推進、地域の清掃活動にも積極的に参加し、地域貢献活動の推進をおこなっていく。事務所周りの緑化活動も積極的に行っていきたい。
- ・建設現場では、二酸化炭素排出量(ガソリン使用量・軽油使用量)が目標達成できなかった。工事量増加によるが、今後もアイドリングストップやエコ運転を心掛けて継続して削減していく。現場での廃棄物においては、まず計測するということを意識付けし、分別廃棄していく。地域貢献活動においても、現場まわりの清掃や地域の清掃活動に積極的に参加する。
- ・今回、改めて事務所や現場から出る廃棄物の種類の多さに何をどう分別するのかということから始め、まだまだこれから改善していかなければならないことのほうが多い。よかったことは、従業員一人一人が意識することにより、目に見えて廃棄物が少なくなったように思われる。意識して減らせるものは減らしていけるように、従業員、会社全体で取り組んでいく。

令和 7年 6月 1日  
株式会社長与管工設備工業所  
代表取締役 尾川 公一

## 12 当社における環境配慮の取組

### ① 従業員への意識付け

(節電ポスター、エコ運転)



(建設現場での取組)



② 表示の明確化による分別の徹底

